

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520630

研究課題名(和文) 英語話者の物語コーパス作成とレキシカルフレーズ中心のリスニング教材の提供

 研究課題名(英文) Listening Materials for Learning Lexical Phrases Based on English Speakers'
Once-Upon-a-Time Story Corpus

研究代表者

金子 朝子 (Kaneko, Tomoko)

昭和女子大学・文学研究科・教授

研究者番号：10138505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：英語母語話者が子供の頃に聞いた物語を語ってもらい、それらを収録した物語コーパスをWEB上に公開した。同じ物語が、様々な英語圏の年代の違う話者に語られているが、大まかな物語の構造は共通で、語りで用いられるレキシカルフレーズにも細かな差違があるものの、物語の構造に関わる表現やフレーズはその物語の特徴を示すものであるため、語り手の所属する英語圏と年齢要因にはほとんど左右されていなかった。

物語は主人公を中心として展開され、同じフレーズの繰り返しが頻繁であることから、多くの話者が子供の頃に聞いた語をその特徴的なフレーズと共に記憶しており、入門期の英語指導の補助教材としての物語の有効性も明らかにした。

研究成果の概要(英文)：A story corpus was made by recording English native speakers' oral stories which they heard in childhood. Although the same stories under the same title were often told by speakers in different parts of the world and of different ages, there were not many differences in the plots and in the use of lexical phrases among the stories. Each story has certain lexical phrases which are typical, for example, "I'll huff and I'll puff and I'll blow your house in" in Three Little Pigs.

The fact that the stories develop quickly centering the main character(s) and frequently repeat the same phrases will ensure that they become extremely useful as additional teaching materials in English classrooms.

研究分野：第二言語習得

キーワード：物語コーパス リスニング教材 レキシカルフレーズ

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 23 年度から小学校で「外国語活動」がスタート

平成 23 年度には小学校 5・6 年生で「外国語活動」が必修となり、日本の英語教育は新しい時代を迎えた。小・中・高の学習指導要領には、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、コミュニケーション能力を養うことが目的として掲げられている。世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を養うには、世界の様々な英語圏で用いられるバラエティーに富んだ英語のインプットを、英語の入門期から豊富に受けることが大切であると考えた。

(2) 収集した ICLE(国際学習者英語コーパス)、LINDSEI(ルーベン大学話し言葉中間言語国際データベース)の日本人サブコーパスに見られる日本人大学生英語上級者の英語使用の特徴

本研究代表者が中心となって収集した上記コーパスの分析の結果、日本人英語学習者は、特に前置詞や冠詞の正確な使用を不得意としていることが示された。文法的なルールとしてではなく、レキシカル・フレーズとして多くのインプットとアウトプットを行うことで、こうした弱点を補うことができると考えた。

(3) レキシカル・フレーズの重要性

コミュニケーションと文法学習の関係について、M. Pienemann(1988)は、学習者は語彙や慣用句などはいつでも学ぶことができるが、文構造については学習者の中間言語が、指導される事項を学べるレベルに達していなければ学ばれることはない、と述べている。これは、どの習得レベルにある学習者でも慣用句は学ぶことができる可能性を示したものである。また、N. Schmitt(2004)も、後に文構造を習得する基礎として、慣用表現を学

ぶことの重要性を指摘する。このように、英語の文構造を学ぶ前に、ひとまとまりの語句や表現であるレキシカル・フレーズを豊富にすることは重要な意味を持つ。中間言語の発達に伴って段階的に、ある文構造を学ぶ準備ができた時点で、学習者に気づきが起こり、やがてレキシカル・フレーズは分析され、文法性が意識される。この気づきこそが習得へと繋がる(R. Ellis, 1994)、S. Hunston(2000)らのレキシカル・グラマーでも、フレーズを単位とする学習こそが、後の運用力の基礎になることを示唆している。このような視点から、レキシカル・フレーズが豊富に用いられる昔話を英語入門期に活用することは有効であると考えた。

2. 研究の目的

(1) 「英語母語話者が語る物語コーパス」の作成

世界のさまざまな地域の英語母語話者が子供の頃に触れたレキシカル・フレーズのインプットがどのようなものであるかを探るために、英語母語話者が語る物語のコーパスを作成し、WEB で公開すると共に、口頭で語られる物語の特徴や語用を分析する。

(2) 「英語母語話者が語る物語コーパス」からレキシカル・フレーズを抽出し、入門期の英語指導への活用を検討

作成したコーパスを分析して、英語学習の入門期に、文法ルールとしてではなく、手続き的知識を支えるレキシカル・フレーズとして、どのようなインプットを与えるべきかを検討する。同時に、英語入門期の日本人学習者に、自然な英語のインプットを豊富に与えるための教材作成の方法も検討する。

3. 研究の方法

(1) コーパス作成

約 20 分間のインタビュー形式で、世界主要

英語圏の母語話者の協力を得て、子供の頃によく聞いた英語の物語を話してもらい、録音・記述し、コーパス化した。データ収集時期と場所は概ね以下の通りで、データの収集は、基本的に夏期・春期休暇中に行った。インタビュー協力者は、年齢、地域、性別のばらつきを考えて募集・依頼し、収集したデータは文字化が終わり次第、Web上に公開した。

日程	収集場所	件数	記述
H.22.9	アメリカ	28件	12月～3月
H.23.9	オセアニア	20件	12月～3月
H.24.9	カナダ	8件	12月～3月
H.25.9	イギリス	11件	12月～3月

(2) コーパスを含めた分析

インタビューには、話者の出身地、年齢、物語を聞いた頃の自分の年齢や環境等の情報も含んでおり、このような話者要因がどのように語られた物語に影響しているかについて分析を行った。また、テキストファイルとして作成した物語コーパスを、英語分析ツールのワードスミスやNグラム(確率・統計的自然言語処理の分野で用いられる)を主に使用して、頻度の高い2語～7語表現を中心として分析した。

(3) 教材作成

小学校外国語活動全面実施から指導現場での活用が可能となるように、英語学習入門期の指導に役立つ教材を作成し、小学校教諭を志望する大学生向けのテキストで紹介することとした。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

口頭で語られる物語の収集

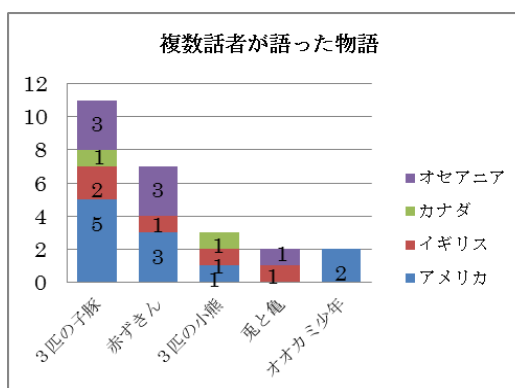
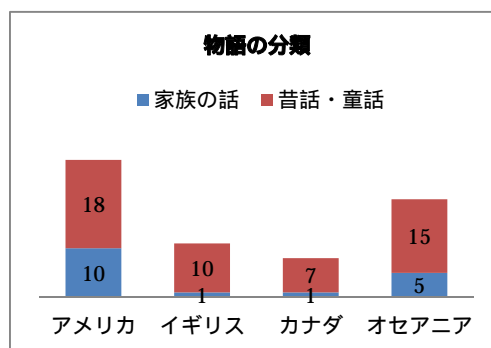
書かれた物語の収集はこれまでも存在したが、口頭で語られた物語を音声で収録したものは数少ない。研究者が直接に聞かせるとうという形式でほとんどのデータを録音したもので、聞き手に語りかける形式で収録

した。

紙ベースでなくWEB上での公開語り手には、そのままの声をWEB公開することについての許可を得て、一語一句そのままに書きとったワードファイル形式のテキストに音声を添えて掲載した。同じ物語でも語り手によって、話の筋や、語り方、そして時には登場する人物や動物にも多少の違いがあり、興味深い内容となった。カナダで収集したファイブ・インディアン・ネイションズに属する方々の語りについては、物語は種族全体の財産という考え方に従って、音声のみを公開し、物語を書き取って公開することは控えた。

また、話者情報や語られた物語に関するエピソードも同WEBサイトに掲載した。

収録した物語の分類



期待に反して、昔話や童話ではなく、家族の歴史に関する語りも全体の約25%を占めた。また、『3匹の子豚』は昔話・童話総数50の約22%を、『赤ずきん』は約14%を占めた。

データから見た語りの物語の特徴

物語には、主人公に常にスポットを当て、同じ場面を同じ言葉で繰り返し、話の筋が明確にテンポよく物語の結末へと向かう(小澤、1999)という特徴がある。使用される英語の大きな特徴として、a.内容語、人称代名詞、動詞の過去形が多く用いられる、b.物語の特徴を示す決まり文句が繰り返し用いられる、の2点が挙げられる。また、語りの物語の特徴として、語り手による脚色が加えられる点も興味深い。上記にあるように同じ物語が数名の話者によって語られているが、その語り方には一つとして同じものはなかった。

中学校英語教科書との比較

授業で使用される教科書は一般的に文法シラバスに従って、易しいと想定される文法事項の順に提示されるが、物語では話の運びを理解することに話者も聞き手も焦点を置くことで、文の構造よりもひとまとまりのフレーズの意味を聞いて理解することが中心となる。物語では、教科書で使用頻度の低い語彙や定冠詞 the の使用が多い。紙面の都合などの理由で、教科書では例えば、書きことばと話し言葉を合わせて1億語からなる世界最大のイギリス英語コーパスである BNC などのすべての母語話者コーパスで使用頻度が1位である定冠詞 the よりも内容語の方が多く用いられているのが現状となっていることを考慮すれば、物語は自然の言語使用をより反映していると考えられる。

英語授業での物語の活用

学習教材として語りや読み聞かせの物語を活用することの利点は、学習者とその物語に用いられている独特の言い回しに触れ、同じ表現を繰り返し聞き、語り手が作り上げる英語の音とリズムを楽しむことにある。こうして、物語は学習者が積極的に英語を聞こうとする意欲を高めることを可能にする。加え

て、物語を聞くことで、学習者それぞれが、基本的なプロットを理解した上で、そこに独自の創造的な味付けができる。単に「聞く」活動として終わるのではなく、能動的な活動へと広がる糸口となると考えられる。

(2) 英語入門期の物語を利用した指導

物語の基本は「行って、経験して、帰ってくること」(瀬田、1980)であり、それに基づいてサンプルとなる物語、*Toby's Friends* を作成した。ここでは挨拶と動詞(walk, skip, jump, sleep),「～が好き」の表現(like(s) to + V)を指導することを目的としている。教師が工夫を加えれば、一定の語句や慣用表現を繰り返し聞いて学んだり、子ども達の創造性を引き出して子ども達それぞれが自分の物語を作り上げたりする指導も可能となろう。

Toby's Friends



① **Toby likes to walk.** “Good morning, Miss Daisy,” he said.

“Good morning, my friend,” the daisy said.



② **Toby likes to skip.** “Hello, Mr. Grasshopper,” he said.

“Hello, my friend,” the grasshopper said.



③ **Toby likes to jump.** “Good afternoon, Mrs. Butterfly,” he said.

“Good afternoon, my friend,” the butterfly said.



④ **Toby likes to run.** “Hi, Miss Puppy,” he said.

“Hello, my friend,” the puppy said.



5 Toby likes to sleep. “Zzzz..., Zzzz...,” he said.

“I love my friends..., Miss Daisy, Mr. Grasshopper, Mrs. Butterfly, and ... Zzzz ... Zzzz ... Miss Puppy. Zzzz...”



Toby's Friendsを使った指導例

1. 絵本を繰り返し読み聞かせる。
2. Toby や Toby の友達の挨拶の部分をごども達に言ってもらう。
3. 絵本を読み聞かせながら、Toby が好きなこと(walk, skip, jump, run, sleep)をごども達に言ってもらう。
4. 子ごども達に、犬の名前や毛色を決めてもらい、絵本を書きかえて読み聞かせる。
(発展)
5. Toby がこの他に好きなことを想像してもらい、犬の活動を増やしていく。
6. 子ごども達一人一人が自分の(想像上の)ペットの絵を書いて、それが好きなことをクラスに話す。

(3) 今後の展望

平成27年度から平成31年度には、科学研究費助成事業(基盤研究(C)、研究課題「英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用句を中心とした絵本教材の作成と提供」)を受け、本研究で得た成果を基に、小学生から中学生を対象として「外国語(英語)」の授業で活用できる絵本のテンプレートを作成する。指導の現場でそれを利用した効果を検証すると共に、指導教員や学習者が身近な話題を題材にして英語の絵本教材となるものを作成する補助となるデータベースを作成し、公開する計画である。

引用文献

- Ellis, R. (1994) *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford University Press.
- Hunston, S. (2000) *Corpora in Applied Linguistics*. Cambridge University Press.
- Pienemann, M. (1988) ‘Determining the influence of instruction on L2 speech processing’ *AILA Review* 5/1:40-72.
- Schmitt, N. (eds.) (2004) *Formulaic Sequences: Acquisition, Processing, and Use*. John Benjamins Press.
- 瀬田貞二(1980)『幼い子の文学』東京：中央公論新社

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

金子朝子、「英語母語話者が語る物語と英語教育での活用(2)『赤ずきん』」『学苑』査読有、894号、2015、2-16

金子朝子、「英語母語話者が語る物語と英語教育での活用(1)『三匹の子豚』」『学苑』査読有、858号、2012、2-14

〔その他〕

『世界の英語話者が語る子供の頃によく聞いたお話』

<http://aso.swu.ac.jp/corpus/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子朝子 (Kaneko, Tomoko)
昭和女子大学・文学研究科・教授
研究者番号：10138505

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし